

学生とリハ専門職の観察視点の違い

Differences in observational perspectives between students and rehabilitation professionals

松寄 由莉[†], 後呂 智成[‡], 奥田 祥司[†]
Yuri Matsuzaki, Tomonari Ushiro, Shoji Okuda

[†]宝塚医療大学

Takarazuka University of Medical and Health Care

[‡]紀和病院 リハビリテーション部

Department of Rehabilitation, Kiwa Hospital

y-matsuzaki@tumh.ac.jp

概要

作業療法士は対象者を評価する際に観察を用いることが多いが、動きの中で対象者を観察することは難しい。熟練者の観察場面を見学しても、熟練者がどこを視ているのかを明確にすることは難しく、非熟練者にとって観察技術の修得は困難である。本研究は、非熟練者と熟練者の着目点の違いを明らかにすることで、熟練した作業療法士の視点をより効率的に修得できる方法を検討することを目的とした。

キーワード：可視化, 観察, 熟達化

1. はじめに

作業療法士は作業を通して健康と wellbeing を促進することを目的とした専門職である[1]。一方で、作業療法士として働いていても、自身の知識やスキルの不足により、作業に基づいた評価を行うことができていない作業療法士が多くおり、この問題を乗り越えるためにはさらなる研鑽が必要である[2]。

作業療法の評価や治療を計画するときに対象者にとって必要な活動を実行する際に妨害している要素を対象者の動きの中で見つけて評価を行うことが求められる。赤堀ら[3]は、検査測定に先行または並行して観察があり、観察によって評価項目の抽出や追加がなされていると述べている。以上のことから作業療法士にとって、作業療法の実施、評価において対象者の動きの中での観察の技術が求められていることが分かる。

非熟達者は着目点が分からず重要な情報を見落としがちになっており[4]、動作観察の際の作業療法士の着目点および推論内容と比較し、作業療法学生の観察は、限定的な範囲、表面的な視点、貧困な表現、短絡的な関連付けという特徴があると報告されている[5]。つ

まり、作業療法学生は動作観察の際に着目点がわからず、重要な情報を得ることができないために、十分な動作観察ができていないことがわかる。以上のことから、非熟練者にとって観察技術は修得が困難なものであり、観察技術を習得するためにまずは着目点を学ぶ必要があることがわかる。

一方で、着目点に関しては、動きの中の観察において言語化が難しく、非熟練者が熟練者から学ぶ際も、熟練者が非熟練者に指導する際もどの程度互いの着目点が異なっているかは明らかでなく、非熟練者が観察評価を学ぶ際の弊害となっている。

そこで本研究では非熟練者が観察評価をより効率的に修得するために、視線入力装置を用いて動作分析の観察箇所を可視化することによって、熟練した作業療法士と作業療法学生の視点の違いを明らかにすることを目的とした。

2. 方法

2.1 対象

作業療法士10名、作業療法学生16名を対象とし、メールにて参加者の募集を行った。作業療法士は熟練者を選定するために、実習生の指導を行うことができる経験年数5年以上を対象とした。作業療法学生は動作観察などの授業を受講している3年生を対象とした。

2.2 実験方法

片麻痺患者の立ち上がりを再現した医療者の前方からの動画と、右側方からの動画を作成した。被験者には動画を見る前に動作分析するように指示し、動画をみている際に視線入力装置を用いて身体の中のどの部位を視ているかを可視化した。身体については頭部、肩、体幹、骨盤、膝、足部に分割し、それぞれの部位を視ている時間を測定した。

視線入力装置は、EyeTec社製のTM5-miniを使用し、

miyasuku EyeConRC（以下、視線検出装置）を利用して視線の検出・記録を行った。

2.3 統計解析

動作観察時の身体部位ごとの見ている時間を作業療法学生と作業療法士で各部位ごとにウィルコクソン順位和検定を用いて比較する。

3. 結果

作業療法士 10 名と作業療法学生 16 名が対象となった。作業療法士は身体部位をまんべんなく確認している傾向にあるが、作業療法学生は、一つ一つの部位を観察する時間が長い傾向にあった。

文献

- [1] WFOT: 2012 Definition of Occupational Therapy.
<http://www.wfot.org>AboutUs/AboutOccupationalTherapy,DefinitionofOccupationalTherapy.aspx> (accessed 2024-4-24)
- [2] A. Z. C, Daud, Jenni, Judd, Matthew, Yau. & Fiona, Barnetta. (2016). Issue in Applying Occupation-based Intervention in Clinical Practice: A Delphi study. *Procedia - Social and Behavioral Sciences*, 222, 272-282.
- [3] 赤堀将孝, 石浦 佑一, 亀山 一義, 梅田 顕, 山本 順也. (2023). 作業療法士と作業療法学生の動作観察場面における相違と臨床実習を想定した口頭での助言の効果. *作業療法* 42(2), 185-191.
- [4] 才藤栄一. (2007). 動画でみる臨床動作分析のポイント. *理学療法* 24(8), 1037-1050.
- [5] 鈴木憲雄. (2014). 脳卒中片麻痺患者に対する作業療法観察評価の着眼点と推論内容-作業療法学生熟練作業療法士の比較研究-. *作業行動研究* 18(3), 127-135.